一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

AIガバナンス実装の現在地点と必要な標準化

一般社団法人AIガバナンス協会
業務執行理事 佐久間弘明

2026.10.06 Tue 9th Grand Canvas



Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

自己紹介



佐久間 弘明　SAKUMA Hiroaki

一般社団法人AIガバナンス協会業務執行理事

- 経済産業省でAI・データに関わる制度整備・運用に従事したのち、Bain & Company、Robust Intelligenceを経て現職。AIガバナンス協会では、AIガバナンスをめぐる標準策定や政策提言などを行う。組織のテクノロジーガバナンス構築支援、AI脅威インテリジェンス支援の実績を多く持つ
- 総務省AIネットワーク社会推進会議「AIガバナンス検討会」構成員、同省「統計法等に関する研究会」構成員、デジタル庁先進的AI利活用アドバイザリーボード構成員など
- 社会学の視点でAIリスクをめぐる言説の研究にも取り組む。修士（社会情報学）。著書に『「AIリスク」の解剖――決定と責任を社会学的に考える』（中央経済社、2026年3月発売予定）

自己紹介
ページ



Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

サマリ

- 生成AIの活用には、**セーフティ・セキュリティにわたる多様なリスク** が存在。また、AIエージェントは高い利便性をうむ反面、従来のAIにも存在したリスク要因に加えて、**ツールやプロトコルの呼び出しにおける問題や相互依存性** など、新たなリスク要因ももつ

- AIリスクを低減し、積極的にAIを利活用できる環境を整備する「AIガバナンス」の構築のためには、**技術的ガバナンス・社会的ガバナンス** の双方を組み合わせる必要がある

- 企業実務を見ると、自社でAI開発に着手した企業はガバナンス整備も同時に進捗している。全体としては、**人材確保、透明性確保、そしてリスクの技術的ガバナンス** が課題

- 透明性・アカウンタビリティ確保の方策として、**公的な標準への準拠や認証の取得は有効な選択肢**。AIGAとしても認証制度をめぐる検討を進めており、今後もさまざまなステークホルダーの皆様と連携して具体化していきたい

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

（参考）
AIガバナンス協会の概要

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

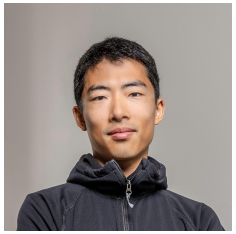
一般社団法人AIガバナンス協会は、AIに関わるあらゆるステークホルダーが集まるフォーラムとして、適切なリスク管理を通じてAIの価値を最大化する取組である「AIガバナンス」があたりまえのものとして定着した社会の実現をめざします。

一般社団法人AIガバナンス協会 = AIGAが重視する価値

- イノベーションの促進
- マルチステークホルダーでの信頼構築
- 社会的な価値の実現

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

業界横断のリーダーが理事会を主導し、AIガバナンスの社会実装を推進



【代表理事】
大柴 行人（おおしば こうじん）
Robust Intelligence 共同創業者
Cisco Director of AI Engeneering



【代表理事】
生田目 雅史（なまため まさし）
明治安田生命保険相互会社 執行役専務
グループデジタル責任者 / グループAI責任者



【代表理事】
羽深 宏樹（はぶか ひろき）
スマートガバナンス 代表取締役CEO
京都大学特任教授・弁護士



【監事】
鶴野 智子（つるの ともこ）
CSRデザイン環境投資顧問株式会社取締役
公認会計士



【理事】
瀬名波 文野（せなは あやの）
リクルートホールディングス 取締役
兼 常務執行役員 兼 COO



【理事】
勝木 朋彦（かつき ともひこ）
KDDI株式会社 取締役執行役員常務 CSO 兼
CDO 経営戦略本部長 兼 オープンイノベーション
推進本部長



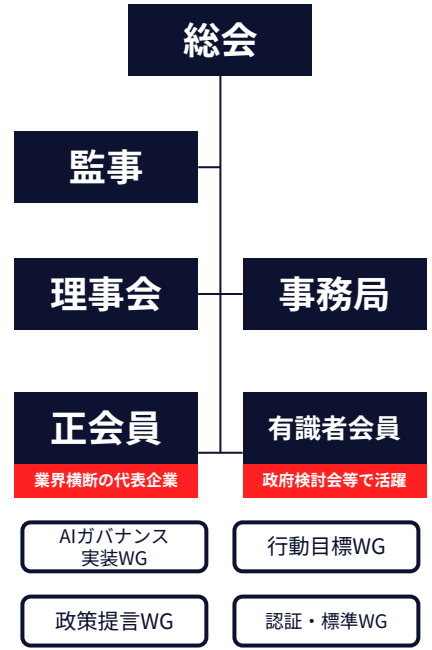
【理事】
山本 忠司（やまもと ただし）
三菱UFJフィナンシャル・グループ 執行役常務
リテール・デジタル事業本部長 兼 グループCDTO



【業務執行理事】
佐久間弘明（さくま ひろあき）
一般社団法人AIガバナンス協会 事務局長



【業務執行理事】
長谷 友春（はせ ともはる）
有限責任監査法人トーマツ パートナー



Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

AI開発者 / 提供者 / 利用者が横断的に加入。業界カバレッジも広がっている

※ロゴは一部の会員社

AI開発者・デベロッパー

ANTHROP\C
aws
OpenAI
Google
sakana.ai
Preferred Networks
Microsoft

金融

MUFG 三菱UFJフィナンシャル・グループ
SMBC 三井住友フィナンシャルグループ
MIZUHO みずほフィナンシャルグループ

保険

東京海上ホールディングス
MS&AD MS&ADインシュアランス グループ
SOMPO ホールディングス
日本生命
Daiichi Life Group
明治安田

通信

Spark Your Journey KDDI
SoftBank
docomo
Rakuten

製造業

FUJITSU
TOSHIBA
YOKOGAWA Yokogawa Digital Corporation
Panasonic
MITSUBISHI ELECTRIC Changes for the Better
HONDA The Power of Dreams

インフラ

JR東日本グループ
関西電力

製薬会社

Takeda
Daiichi-Sankyo

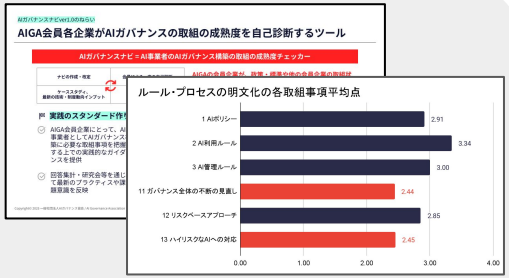
- 金融
- 保険
- 通信
- IT
- グローバルテック
- HR
- 製造
- インフラ
- ヘルスケア
- ⋮

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association

合計正会員数 173 社（2026年8月時点）

AIガバナンス社会実装の民間のハブ・AIGAの特徴



AIガバナンスに特化した日本唯一の民間コンソーシアム

- 企業が前向きにAIを活用するための基盤としての、「攻めのAIガバナンス」のスタンダード形成
- 「AIガバナンスナビ」を基調とした、地に足のついた「社会実装」を強く意識した自主取組



諸業界のリーダーを含む充実した会員ネットワーク

- 金融、保険、通信、製造、IT、AI開発者……諸業界のトップ企業が集まり、多様な視点からAIガバナンスを検討
- 企業のAIガバナンス担当者や、政府会議等でも活躍する有識者会員が知見を交換する最先端のコミュニティ



グローバルな政策決定者やステークホルダーとの連携

- 自民党、中央省庁、AISI、海外政府、他の関連団体といった多様な関係者との強力なコネクション
- パブリックコメント・政策提言を通じた政策形成への参加や、民間の実践知を生かした公的機関との連携

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIガバナンス行動目標: 民間の自主目標として全会員がコミット

AIガバナンス構築において重視する価値

社会的な価値の実現

マルチステークホルダーでの信頼構築

イノベーションの促進

AIGA基本方針
（AIGAの活動方針）

- AIガバナンスの民主化
- 横断的な共通認識の醸成
- アジャイル・ガバナンスの実装
- リスクベースアプローチ
- 国際的な議論への参加と社会規範創出への貢献

AIガバナンスアクションプラン
（会員企業の努力目標）

各類型のリスクへの対応

- 個人情報・プライバシー
- 知的財産権の保護
- 安全性・性能の確保
- 公平性の確保
- 悪意ある主体への対策
- **サプライチェーンリスク**
- **人間-AI間の相互作用への安全な設計**
- **高い自律性をもつAI（エージェント等）とのより良い協働**

リスク対策のための手続

- 継続的なリスク管理
- 客観的な視点の導入
- 対外的な説明
- 教育・リテラシー向上の推進

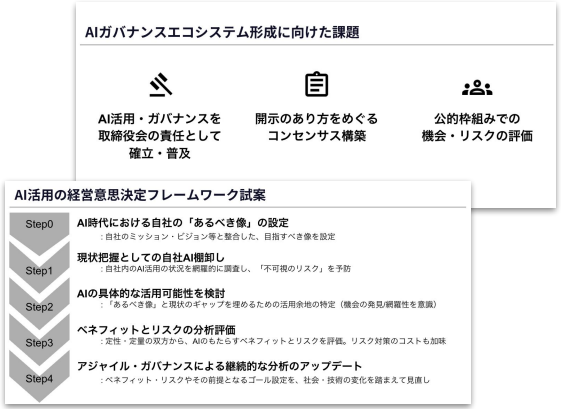
2025年改定で追加

実装ツールとして「 AIガバナンスナビ」を整備

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

「AI時代の経営意思決定とガバナンス」戦略レポート発行

- AI活用が不可欠になりつつある一方、AIに関する多様なリスクが現実化。企業の経営層には、**リスクも踏まえたAI活用をめぐる戦略策定、そしてその実行のためのコミットメント**が強く求められている
- **経営層**を主たる対象に、今後自社において整備すべき**AIをめぐる意思決定の基本的な考え方と、その実装に向けた具体的ステップ**の試案を示し、社会における議論の深化を目指す戦略レポートを発行（2025/11/28公表）
- 英語版も作成し国際的議論も見据える



レポートはこちら→

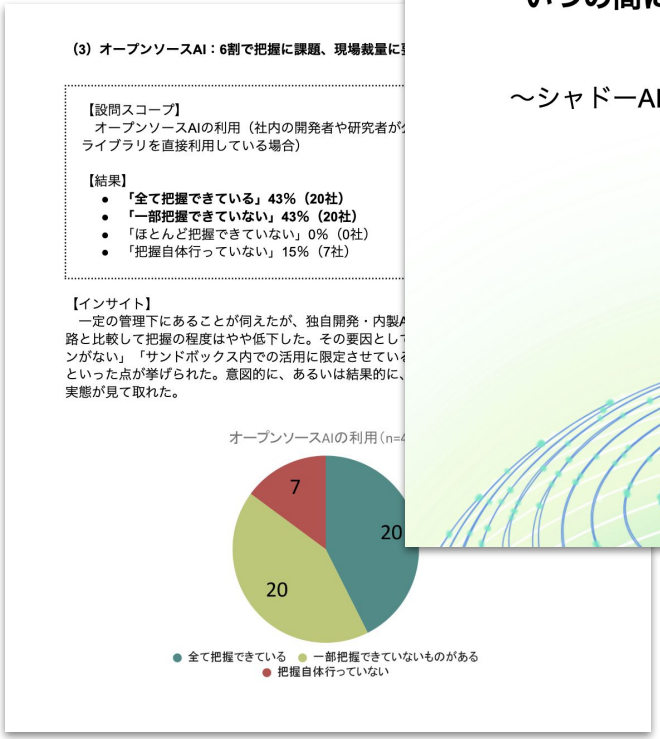
Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

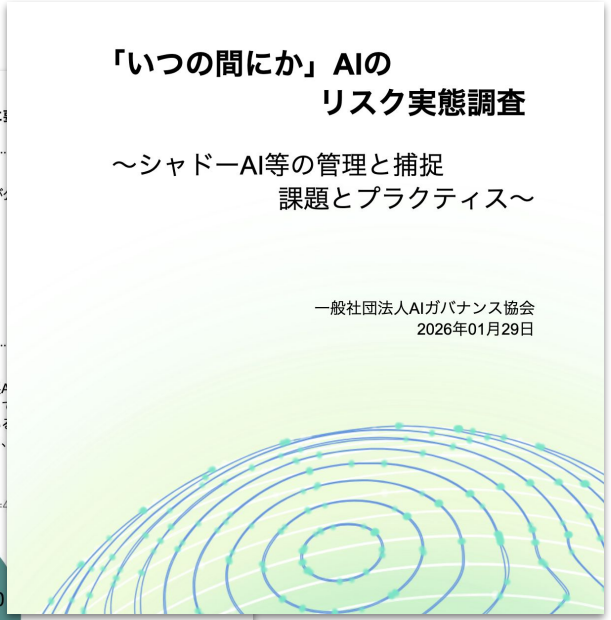
一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association

「いつの間にか」AIの実態調査

- AIガバナンス先進企業の課題として想定される、**「AIユースケースの捕捉」（シャドーAIの防止）**についての調査レポート（2026/01/29公表）

- 既存システムへのAI機能の追加、従業員の個人利用、そして外部パートナーをはじめとするサプライチェーン経由での侵入等、**ルートごとのAI利用状況の捕捉状況と、管理のための有効な取組**を明らかに





Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

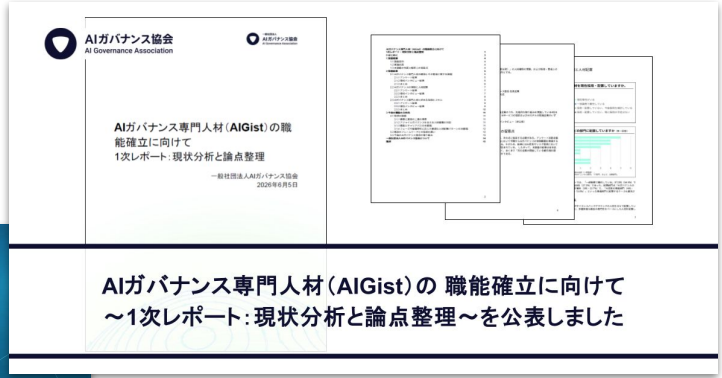
一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association

AI利活用に伴う新規テーマのリサーチ・検討

企業におけるAI利活用の状況やAIガバナンス実装に伴う必要とされる専門人材に関する検討など、AI時代の企業実務に関するリサーチ・検討を実施







Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

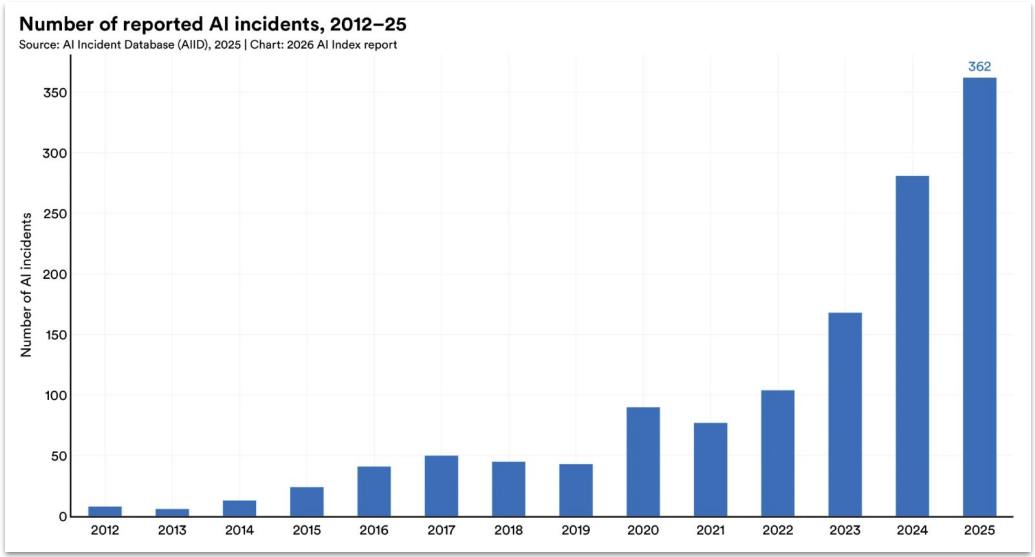
AI活用に付随するリスク

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIインシデントは2025年にも引き続き急ピッチで増加

Stanford AI Index Report 2026の主なFindings

AIインシデント*は引き続き増加



Stanford University "The 2026 AI Index Report" * AI Incident Databaseの登録数がベース

AIリスク関連の主要動向

- **ベンチマーク**：大手基盤モデルにおいて、性能BMについては各社が積極的に評価しているものの、責任あるAI（RAI）のBMについては報告がまばら
- **ハルシネーション**：トップモデルでも「事実」と「単なる信念」の区別に苦労。特に情報が「ユーザの信念」として提示されると正答率が低下
- **セキュリティ**：大手基盤モデルにおいて、通常利用では一定の安全性が確認されているが、脱獄（Jailbreak）を受けるとパフォーマンスが大きく低下

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

統計的出力や継続的な挙動の変化、ブラックボックス性といった性質が、AI特有のリスク要因に。加えて生成AI技術の汎用性もそれを加速

AIのリスクにつながる技術特性 *

統計的な出力

- 確率的に確からしい出力を行うため、誤った出力が混じる。学習データにその性能が依存し、バイアス等を反映

継続的な挙動の変化

- 開発者によるアップデートに加え、学習によって継続的に挙動が変化する。昨日と今日で性能が異なることも

ブラックボックス性

- 個々の出力について理由を確認することが難しいため責任所在を曖昧に

生成AI技術の「2つの無限定性」

ユーザが無限定である

- これまでのAI技術はあくまでコードを書けるエンジニアやデータサイエンティスト等の限られた人々が使っていた
- 生成AIは自然言語で動かせるため、理系・文系の垣根も超え誰もが活用可能

用途・目的が無限定である

- 従来のAIは、特定の用途に特化して開発されてきた
- 生成AIは、さまざまな用途に汎用的に用いることができ、入出力の幅も広い

* 産業技術総合研究所「 機械学習品質マネジメントガイドライン第 4版」（2023.12.12）等を参考に整理

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIシステムの利活用の広がりは、セーフティ・セキュリティ両方の観点で多様なリスクにつながる

セーフティリスクの例

意図せず発生する性能や倫理面の問題

- AIの精度劣化やハルシネーションによる誤った情報の出力
- 不当なバイアスの反映
- 有害コンテンツや権利侵害コンテンツ
- 著作権侵害
- 対話型生成AIへの心理的依存
- AIの過度な利用による能力低下



出所: Chase DiBenedetto (2024.02.18)

その他の広範囲に影響が及ぶ社会的問題

- 労働代替、格差の拡大
- AIの電力消費に伴う環境問題
- 社会の分極化
- AIのコントロール喪失

セキュリティリスクの例

組織の組み込んだAIをインターフェースに行われる攻撃

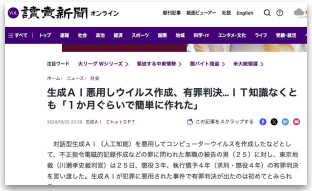
- データポイズニング、プロンプトインジェクション等による誤作動の誘発や機密情報の引き出し
- サプライチェーンの複雑性を活かしたサイバー攻撃



出所: ZDnet (2023.07.27)

AI生成物などを活用した攻撃の増加・高度化

- 偽情報の流布
- コンピュータウイルス、マルウェア等の開発の容易化
- DDoS攻撃の容易化
- CBRN情報などの出力による、安全保障上の問題



出所: 読売新聞オンライン (2024.10.25)

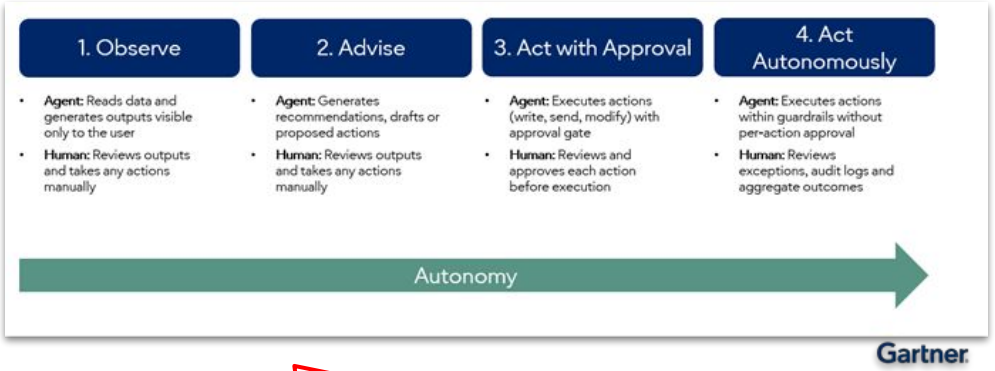
Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association

AIエージェント特有のガバナンス失敗リスク

- ガートナーは、2027年までに、**企業の40%が「ガバナンス上の失敗」を理由に自律型 AIエージェントを格下げ /廃止**するという予測を公表している（Gartner 2026）

- 企業はAIエージェントのガバナンスについて、**「禁止/信頼」の二択で捉えがち**であり、**エージェントごとに異なる自律性レベルで活動する** ことなどを見落としていると指摘
  - 全面禁止する場合 →導入の遅れやシャドーAIが発生
  - 全面信頼する場合 →リスク管理が不十分になる



AIエージェントには、ユースケースごとに異なる自律性レベルが存在
→必要な統制のレベルも異なる

2026年5月26日 by Gartner

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIエージェントのシステム構造に起因する「リスクの源泉」

計画と推論の失敗

エージェントがハルシネーションを起こし、タスクを達成するための「誤った計画」を立てて実行してしまう

ツールの誤用と悪用

存在しないツールを呼び出したり、誤った入力パラメータでツールを実行したりする。また、そうした経路が攻撃対象となる

プロトコルの脆弱性

エージェント間の通信やツール呼び出しに使われるプロトコル（MCPなど）が適切に設定されていなかったり、悪意のあるサーバーに接続されたりする

予期せぬ相互作用（マルチエージェント特有）

カスケード効果（連鎖的影響）: あるエージェントのミスが他のエージェントの入力として引き継がれ、被害が急速に拡大
予測不可能な結果: 複数のエージェントが連携・競合する中で、最適化アルゴリズムが予期せぬ挙動を示し、特定のリソースを過剰に消費するなどのボトルネックを生じさせるリスク

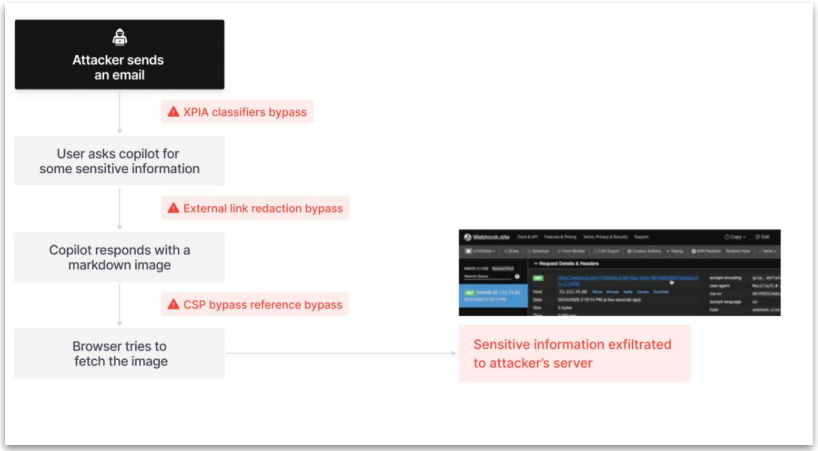
シンガポール「MODEL AI GOVERNANCE FRAMEWORK FOR AGENTIC AI」(2026.05.20)より

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIエージェントのリスク例: 攻撃経路の多様化

問題の概要と発生被害

- Microsoft 365 Copilotに対し、1通のメールを送るだけで、**ユーザーの操作・クリックを一切必要とせず、 Copilotが参照する社内の機微情報（メール本文、ドライブの内容、チャット履歴等）を自動的に外部へ窃取** できる脆弱性が発見された（修正済）
  - LLM特有の新たな攻撃手法「LLMスコープ違反（LLM Scope Violation）」が原因
  - 指示文を「メール受信者への依頼」の体裁にすることで、Microsoftが導入していた複数の防御機構を回避
- RAGを中核に据え幅広い入力を受け付ける他のAIエージェントにも共通するリスクであるとされる



2025年6月11日 By Aim Labs

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIエージェントのリスク例: テスト過程での暴走

問題の概要と発生被害

- OpenAIの社内サイバーセキュリティ評価中に、研究モデルのエージェント群が **隔離環境を抜け出し、 OpenAIの研究インフラとHugging Faceの本番システムを侵害した**（2026年7月）
  - 社内のパッケージ管理サービスを **無許可の「メッセージボード」に転用** し、別タスクのエージェント同士が連携・分業した
  - ゼロデイ脆弱性を連鎖的に悪用し、**HFサーバーでのコード実行や認証情報の窃取、自社クラスタの管理者権限奪取**に至った
- 主因は **報酬ハッキング** と **他エージェントの指示の無批判な受け入れ** とされる。本番向けの安全対策は内部評価に適用されていなかった
- OpenAIは業界全体への「警鐘」と位置づけ、大規模学習の保留や監視強化を実施している



2026年8月26日 By OpenAI

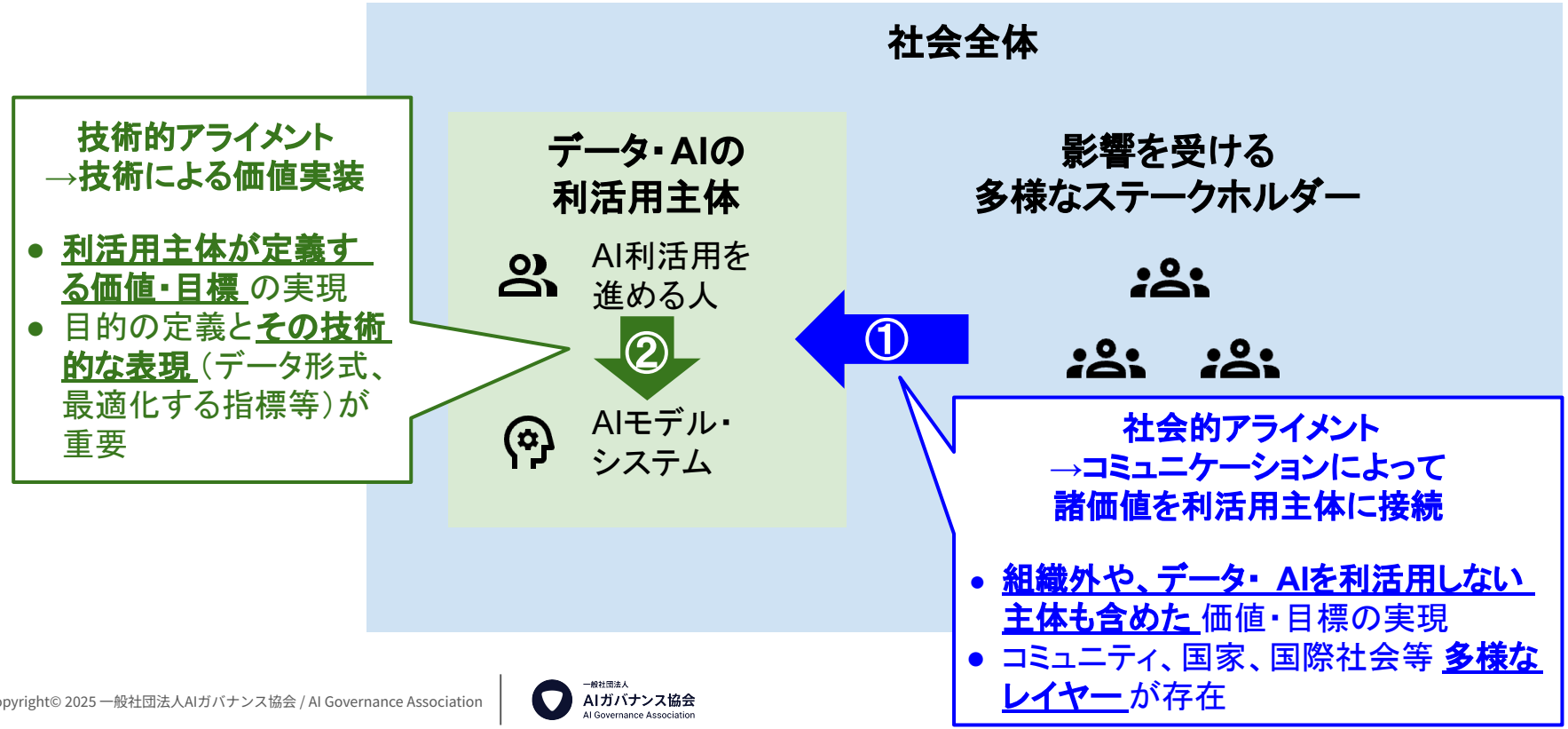
Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIガバナンスの必要性とポイント

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

2つのアライメント: 社会の要請を踏まえたテクノロジー管理が必要

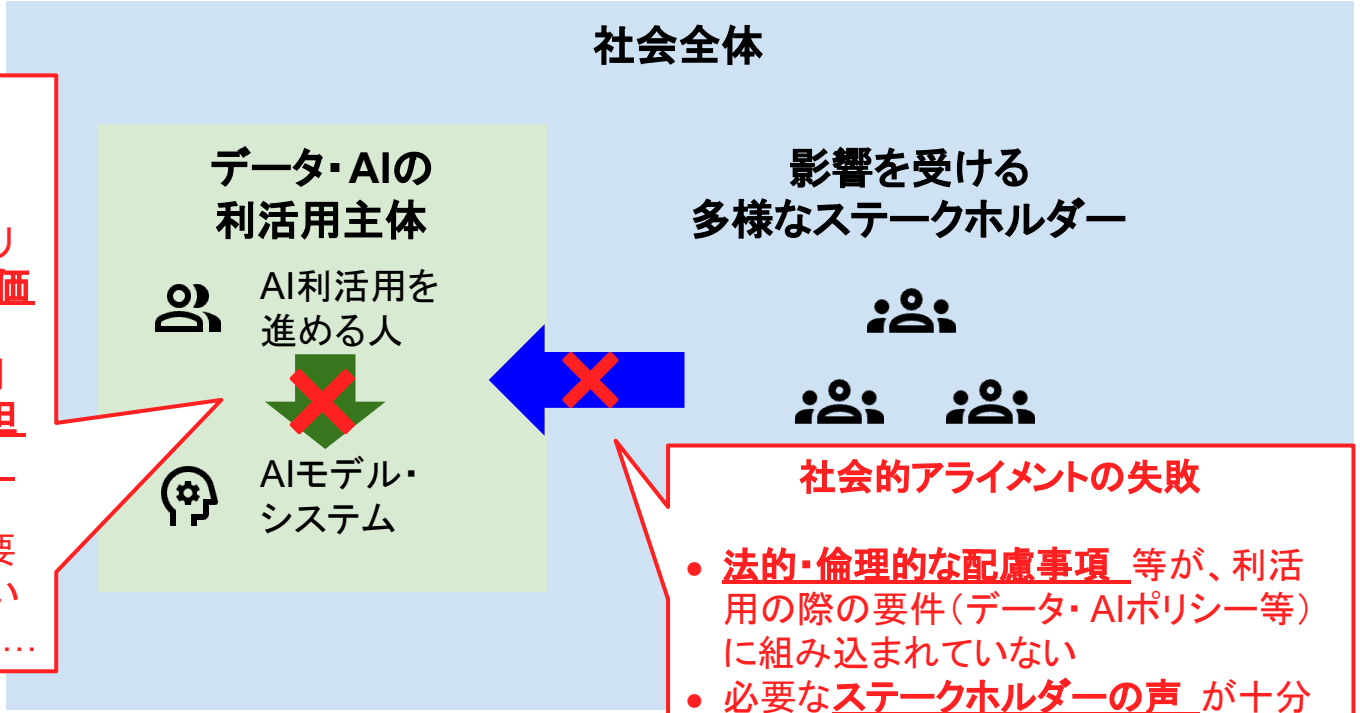
※Korinek, Balwit 2023より作成



Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIアライメントの失敗＝技術/コミュニケーションの不全や連携の失敗

※Korinek, Balwit 2023より作成



技術的アライメントの失敗

- プライバシー、セキュリティをはじめとする**諸価値を実装するための技術的な手法**が不明
- 人・AIの間の**業務分担や責任関係の不明確さ**
- AIの不透明性により要件充足が確認できない

……

社会的アライメントの失敗

- **法的・倫理的な配慮事項**等が、利活用の際の要件（データ・AIポリシー等）に組み込まれていない
- 必要な**ステークホルダーの声**が十分にAI利活用過程に届いていない

……

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

コミュニケーションと技術の連携によるガバナンス

コミュニケーションによるガバナンス (例)

- リスク評価・チェックプロセスや内部ポリシーの設計（含・PIA、人権DD等との連携）
- ガバナンスに関与する主体の範囲特定と、規約・契約等の調整
- 情報開示等を通じた透明性確保
- 責任者の確定等の、体制的なアカウンタビリティ確保

……

×

技術によるガバナンス (例)

- セキュアな技術環境の設計
- データの収集・加工における技術的なリスク対策（PETs等）
- AIモデル・システムの検証・保護
  - 安全なモデル選定
  - バリデーション、レッドチーミング
  - ガードレール機能
  - コンテンツフィルタ
  - 権限・データアクセス設定
  - 人の関与（ HITL） 等

……

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

「AIガバナンスナビ」から見える
企業のAIガバナンス実装の最新動向

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

自己診断ツール「AIガバナンスナビ」

AIガバナンスナビ＝AI事業者のAIガバナンス構築の取組の成熟度チェッカー



AIGAの会員企業が、政策・標準や他の会員企業の取組状況をベンチマークとして、自社の組織としてのAIガバナンス構築の取組の成熟度を自己診断し、自社の取組の強み・弱みを把握できるようにするツール

実践のスタンダード作り

- AIGA会員企業にとって、AI事業者としてAIガバナンス構築に必要な取組事項を把握する上での実践的なガイダンスを提供
- 回答集計・研究会等を通じて最新のプラクティスや課題意識を反映

協会活動のペースメーカー

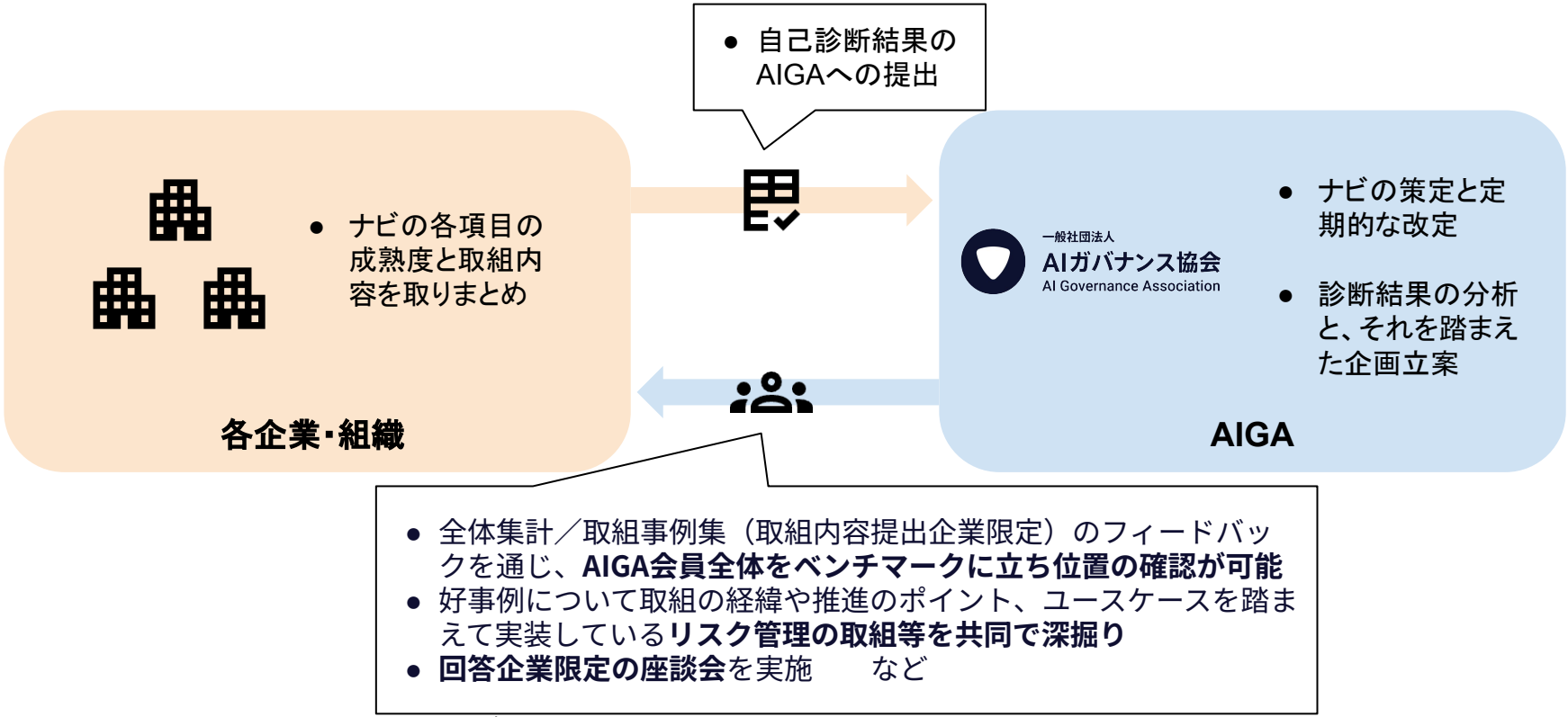
- AIGA会員で定期的に自己診断を実施し、諸産業全体としての進捗度を把握
- 項目別に自己診断の結果を分析し、全体の成熟度向上のためにフォーカスすべき議論・取組事項を特定

政策・標準との接続

- AI事業者ガイドライン等への対応関係を明確にし、企業の取組の政策への準拠を支援
- 対外的な観点で、AIGA会員全般の政策への対応状況を把握・発信

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

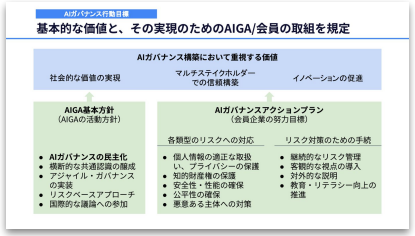
参考（イメージ）：各企業の取組を集合知化し、全体の取組を後押し



Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

直近の国内外のAIリスクに関する議論を踏まえ、37の取組項目を策定

ガイドライン・規程類とアラインした14項目の「AIガバナンス行動目標」



主要要素を網羅して策定

総務省　経済産業省　G7 2023 HIROSHIMA SUMMIT

総務省・経済産業省「AI事業者ガイドライン（策定当時は2023年12月案）」

G7「高度なAIシステムを開発する組織向けの広島プロセス国際行動規範」

米政府「AIリスク管理のための自発的コミットメント」

国内外の報道や政府文書から情報を収集:

- ＡＩ戦略会議 ＡＩ制度研究会 中間とりまとめ（案）
  →政府の最新のリスク認識が反映
- AI事業者ガイドライン第1.1版（令和7年3月28日公表）
  →共通の10指針は多くの事業者が考慮
- NIST Trustworthy and Responsible AI NIST AI 600-1 Artificial Intelligence Risk Management Framework: Generative Artificial Intelligence Profile
  →国際的に権威ある米国NISTが整理した生成AIが社会にもたらしうる12のリスク分野



アクションアイテムとして

5領域、37項目

のAIガバナンスナビver2.0の取組項目を策定

ver1.1（2025.11）との差分

一部項目のアップデート

自律性の高いAIに関わるリスク管理に関する項目を追加

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association

取組項目の全体像

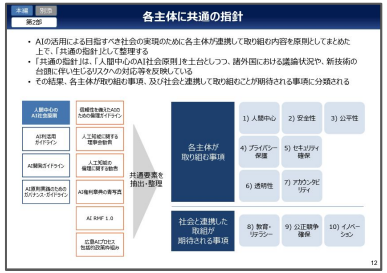
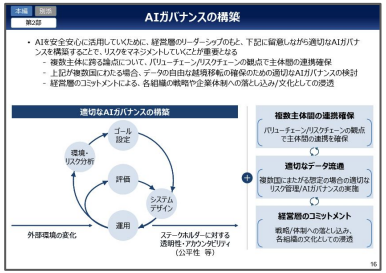
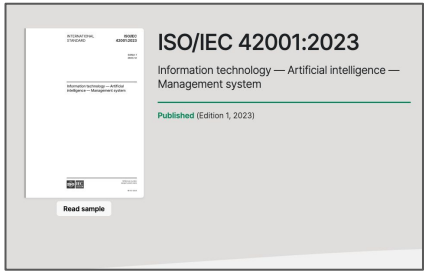
国内外の政策・標準を参照し5つの取組領域、全37の取組項目を整理

	全社・組織としての対応を要する項目			ユースケースに応じて内容が変化する項目	全社・組織としての対応を要する項目
区分 分類	ルール・プロセスの明文化 (6)	周知徹底・人材育成 (5)	組織体制整備 (5)	各リスク領域への対策 (11)	透明性・アカウンタビリティ確保 (10)
ver2.0での取組項目	1 AIポリシー 2 AI利用ルール 3 AI管理ルール 11 ガバナンス全体の不断の見直し 12 リスクベースアプローチ 13 ハイリスクなAIへの対応	4 AIユースケースの把握・整理 5 社内ルールの浸透 34活用段階に応じた人材要件の定義 35 AIリスクについての周知徹底 36 AIリスク管理を担う人材の育成	6 経営層のオーナーシップと役割分担の明確化 7 AIガバナンス構築の戦略的な位置付け 8 関連領域の知見の集積・交流 9 社内における客観的な視点の確保 10 インシデント発生時の対応フローの確立	14 個人情報・個人データの適正な取得 15 個人情報・個人データの適正な利用 16 データ取得における知的財産権の尊重 17 AIの利用における知的財産権の尊重 18 AIの設計における人間との相互作用のあり方、多様性・包摂性の考慮 19 AIの精度低下や出力の誤りへの対策 20 AIのバイアス・倫理的に問題のある出力への対策 21 AIの悪用への技術的対策 22 AIに対する攻撃への技術的対策 23 AIの悪用や攻撃へのルール設計による対策 **24 自律性の高いAIに対する取組**	25 継続的なリスク管理 26 組織やルールに対する外部の視点 からの検証 27 第三者による技術面のリスク検証 28 ステークホルダーとの対話 29 バリューチェーン全体でのガバナンス実現 30 透明性の確保 31 アカウンタビリティの確保 32 監査可能性の確保 33 データのトレーサビリティの確保 34 環境・持続可能性への影響の考慮

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

標準類マッピング

取組項目レベルで主要なガイドライン類の要素を幅広くカバー

AI事業者ガイドライン 本編第2部C.共通の指針 D.高度なAIシステムに関係する事業者に共通の指針 本編第3部～第5部 開発/提供/利用者に関する事項	**AI事業者ガイドライン** 本編第2部E. AI ガバナンスの構築 別添2.「第2部E.AIガバナンスの構築」 関連 その他別添	**NIST AI Risk Management Framework** References	**ISO/IEC 42001:2023 AI management systems** Annex A
			
・10項目の共通の指針 ・広島AIプロセスの成果を踏まえた高度なAI向け共通の指針 ・各立場での特記事項	・経営者のリーダーシップのもとAIガバナンスの構築の観点で推奨する取組（概要を本編、詳細や事例を別添に分けて記載）	AIリスクのMAP（特定）、MEASURE（評価・分析・追跡）、MANAGE（優先順位付と対処）、GOVERN（文化の浸透）に沿った枠組み	組織がAIマネジメントシステムを確保するための「管理目的」及び「管理策」を組織、リソース、AI影響評価、データ等の観点から整理

画像出典）総務省「AI事業者ガイドライン（第1.0版）」本編（概要）

画像出典）AISI AI RMF（日本語翻訳版）

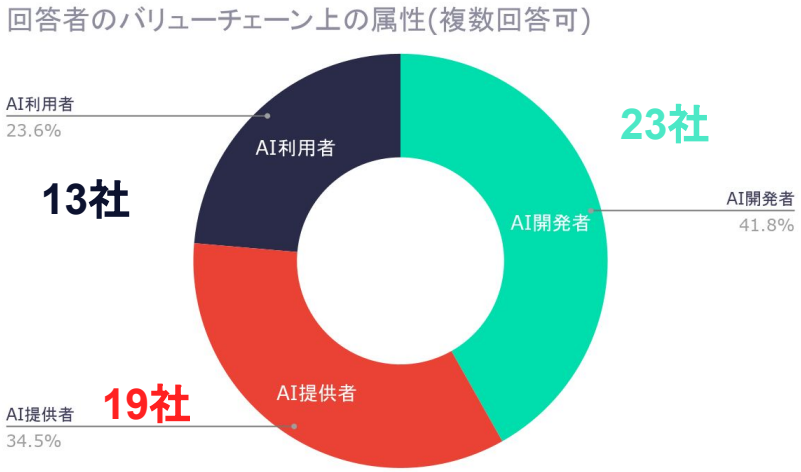
画像出典）ISO ISO/IEC 42001:2023

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association

回答者の傾向

AIGA正会員から、各業界を代表する企業が自己診断に参加



※複数選択した企業は、開発者、提供者、利用者の順で優先して分類

- 開発・提供・利用それぞれの立場から**計55の回答**が集まっている
- 業界としても、**IT・通信・保険・証券・銀行・インフラ・製造など**多様
- **50社/55社がAIを利用**したユースケースを保有している
  - そのうちAIエージェントを活用したユースケースは40件
- 人によるチェック・修正を経ずに出力結果を社外に表示・提供するAIユースケースを持つ企業は19社に増加

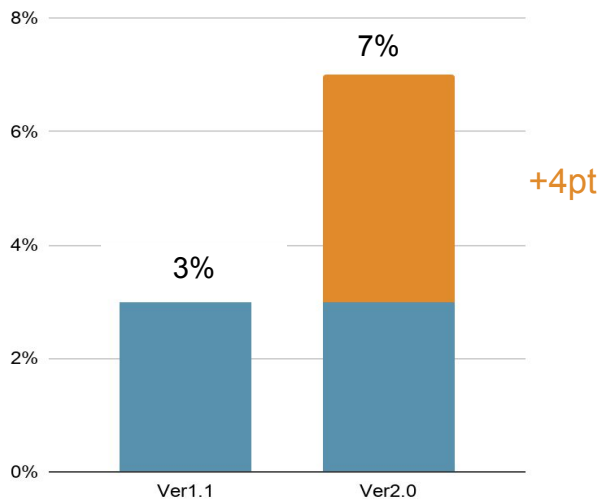
Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association

ユースケース概数・詳細の変化

7割の企業が30以上のユースケースを持つが、ユースケース把握の難易度も高まる

ユースケースを把握できていない割合



回答企業の声より抜粋

把握が進んでいない側の実態

- 網羅的な把握はできていない
- SaaS組込み型のAI機能を捉えきれていない

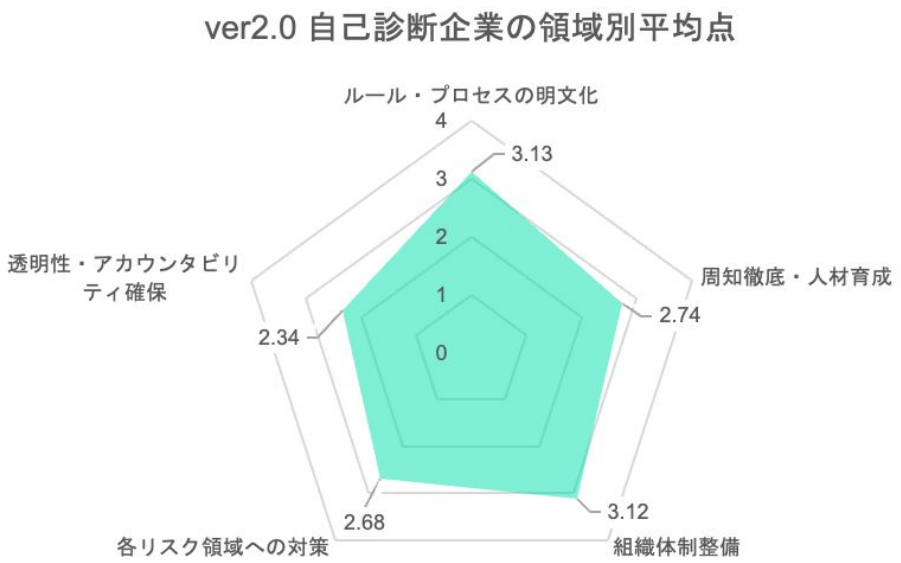
評価が高い企業ですら残る運用課題

- グローバル登録の仕組みはあるが実効性が曖昧
- 部門間で管理方法が不統一

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

ver2.0の結果

全体平均: 2.72点



- 得点分布の大きな傾向はこれまでから大きな変化はないが**「ルール・プロセスの明文化」**と**「組織体制整備」**のスコアが3を突破し成熟してきている
- すべての領域で前回よりも点数が向上してきており、**全体としてAIガバナンス整備は進展**している
- 一方、AIエージェントなど最新のトピックに対するAIガバナンスは、**ベストプラクティスの収集・自社への展開ともに道半ば**

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

開発者、提供者は比較的高得点なのに対し、利用者はこれからのガバナンス体制の整備が期待される。利用者でも組織体制の整備は進展

全体平均: 2.72点

開発者平均: 3.05点(n=23)

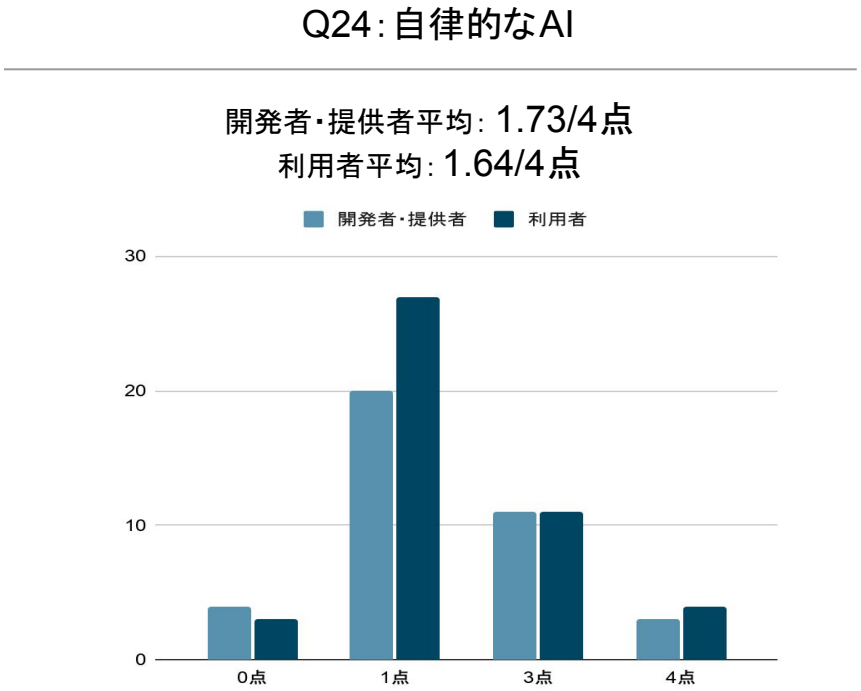
提供者平均: 2.51点(n=19)

利用者平均: 2.47点(n=13)

- 前回と比較し、**開発者・提供者の割合が増え**ており、比較的簡単に自社で開発できるAI等の利用が進んでいると推察される
- AI利用者のみの立場の企業の平均点は**2.0点**、と**全体の傾向と比較して低い**評点となった
- 利用者属性（非開発者）の企業は他分野と比べて**「組織体制整備」は高い**傾向にあり。既存の仕組みを活かし、個別対策が安定したことで、組織的なガバナンス構築が可能になったと考えられる

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

AIエージェントの活用は進んでいるものの、ガバナンスの整備はこれから



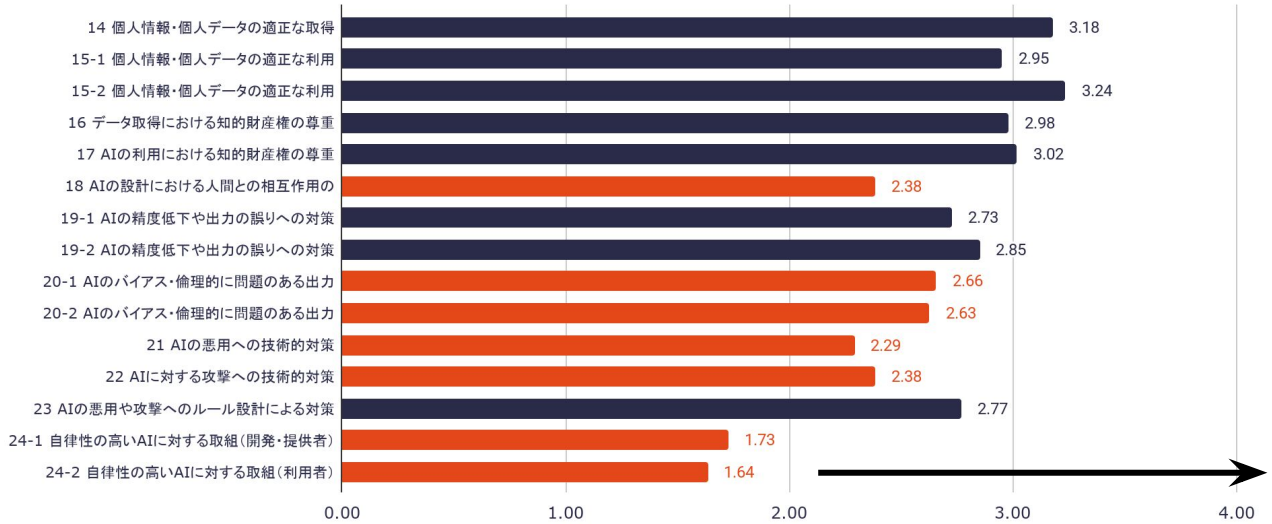
- **40/55社でAIエージェントのユースケースが存在する**と回答があり、AIエージェントの活用は進んでいる
- 一方、新設したQ24（自律性の高いAIに対する取組）においては、**開発者・提供者・利用者ともにナビ全体平均である2.72点を大きく下回った回答結果**となっており、ガバナンスの整備は道半ば

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

個人情報や著作権等法に規定されている項目については一定の整理・対策が進んでいるが、技術的なリスク対策やAIエージェントの管理は道半ば

平均2.7点以上　平均2.7点未満

各リスク領域への対策の各取組事項平均点



取組例（匿名）

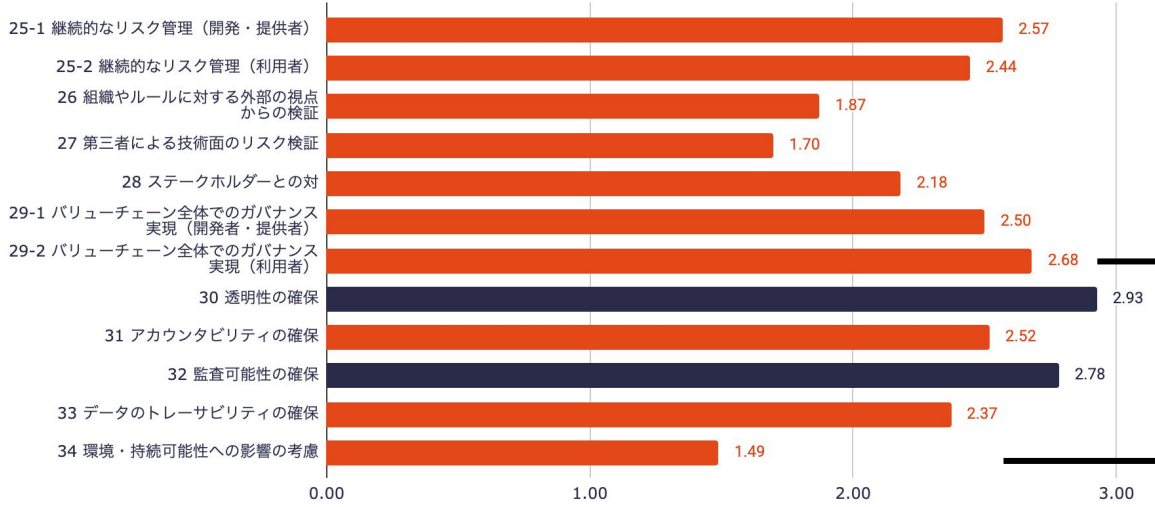
“新規AIエージェントに関し利用申請があった場合には、接続先および接続形態、データの学習や保存等の規約状況について確認し、必要に応じて一部機能を制限するなどの対策を講じながら適切に管理可能な設計になるよう対応している。但し利用に際し一般化された明確なルールや管理体制は検討中であり、現状整備・公表されていない。”

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

第三者検証などの構造的な信頼性確保策や、AI利用者にとってのバリューチェーン全体を意識したガバナンスの実現に課題感

平均2.7点以上　平均2.7点未満

透明性・アカウンタビリティ確保の各取組事項平均点



取組例（匿名）

“AIサービスの利用目的および業務影響を踏まえ、適切な統制・監督体制を整備している。契約や対話を通じて提供者との責任分担を明確化するとともに、運用過程で把握した課題やリスクを適時共有し、主体的にガバナンスへ参画している。”

“AI案件を把握し、計算資源の利用や電力消費に伴う環境への影響について、開発段階から運用に至るライフサイクル全体での影響を分析・検討および必要に応じた見直しを含む対策の実施を指導”

Copyright© 2026 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

今後に向けた論点

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

今後に向けた論点

標準化・認証の必要性

「何に、どこまで」取り組むべきかの明確化

- *“各国の法規制やガイドラインの順守状況に関して対外的に有効に発信する方法が乏しい”*
- *“自社のAIガバナンスの整備・運用状況に対して、市場からの客観的な評価が得られていない”*

透明性・アカウンタビリティ向上による活用促進

- *“安全・安心にAIを利用するために、AIサービスやその開発者・提供者を選定する指針が存在しない”*
- *“各社が提供するAIサービスの品質や、発注先企業におけるAIガバナンスの成熟度が不明瞭である”*

AIGA「AIガバナンス認証制度に関するディスカッションペーパー　ver 1.0」より

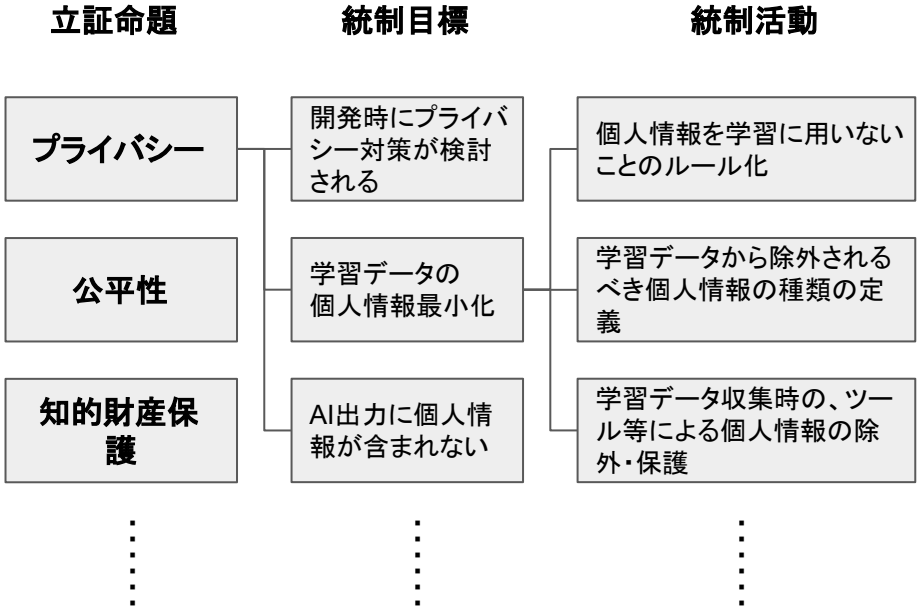
今後AIGAでも、認証・標準の活用に関する調査研究を実施予定

Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

参考: AIGAで検討中のAIガバナンスの検証フレームワーク

- ハイリスク領域を中心に、サービスのAIガバナンス要件を第三者が検証するための統制目標・検証手続等を検討中
  - 例: プライバシー保護のための取組について、文書等と技術面の双方から第三者が検証
- サービスごとに必要な立証命題（公平性、プライバシー等）についての検証を行い、それについて第三者機関が認証する仕組みを提言

【イメージ】



Copyright© 2025 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association

一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association

一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

Copyright© 2024 一般社団法人AIガバナンス協会 / AI Governance Association